谷藤EYE通信

NO,42・43
2012年
(平成24年)

薪の上で

医療法人泰明会　谷藤眼科医院
URL　http://www5d.biglobe.ne.jp/~tanieye/

副院長　寺井典子

緑内障は、現在の日本における失明原因の第１位です。

はたしてどの位の人が緑内障なのでしょうか？

平成 12 年9月から平成 14 年3月に日本緑内障学会で大規模な調査行いました。

この調査は多治見スタディーと言われ、岐阜県多治見市の 40 歳以上の市民５４，１６５名から４，０００人を無作為抽出して検査を行いました。受診率は７８．1% でした。多治見スタディーによると、40 歳以上の日本人における緑内障有病率は、5.0% であることが分かりました。つまり 40 歳以上の日本人には、20 人に1人の割合で緑内障の患者さんがいるということになります。

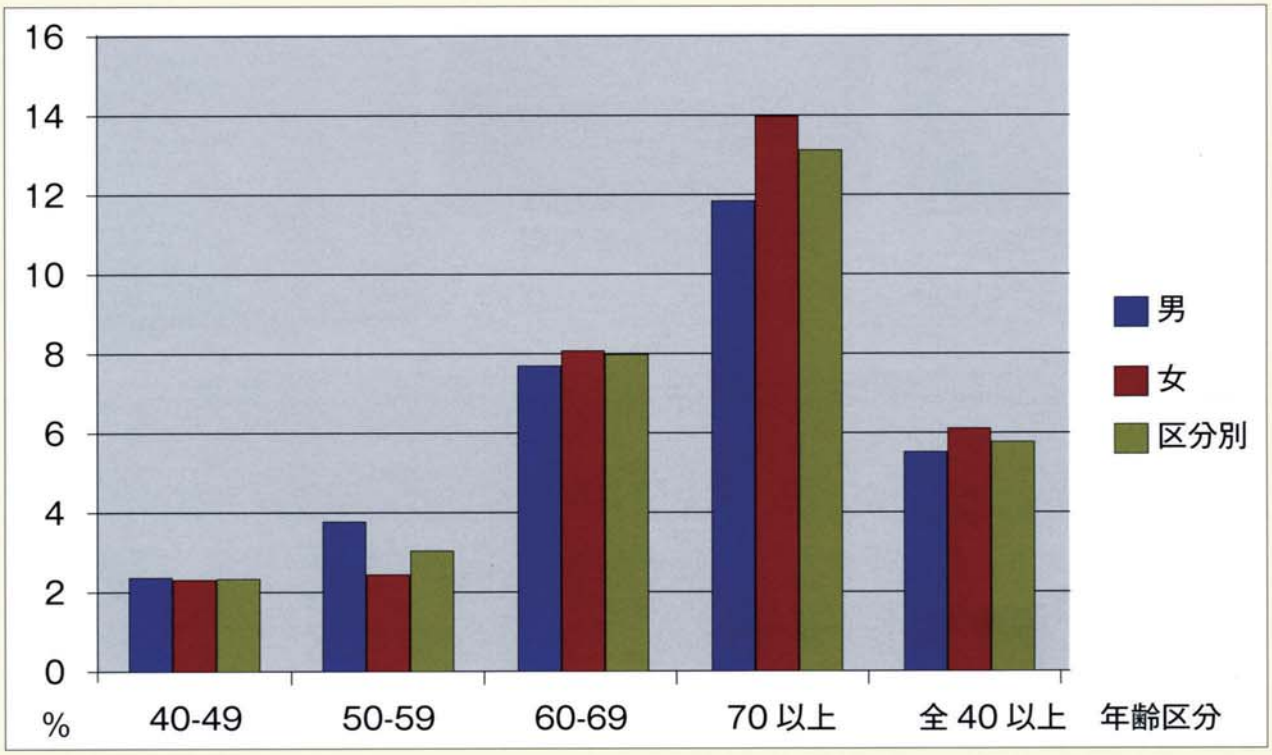
そこで、当院でも 40 歳以上の職員に検査を行いました。２３人中1人が緑内障で、４．３% の緑内障有病率となり、多治見スタディーと似たような結果が得られました。眼科の職員でありながら自分が緑内障であることを知らないでいました。

緑内障の有病率は、年齢とともに増加していくことが知られており、今後ますます患者さんの数は増えていくことが予想されます。多治見スタディーでは発見された緑内障の患者さんのうち、それまで緑内障と診断されていたのは全体の１割に過ぎませんでした。つまり、緑内障があるのにもかかわらず、これに気づかずに過ごしている人が大勢いることも判明しました。

最近の緑内障の診断と治療の進歩は目覚しく、以前のような「緑内障＝失明」という概念は古くなりつつあります。中には現代医学を駆使しても失明から救えないきわめて難治性の緑内障が存在することも事実ですが、一般に、早期発見・早期治療によって失明という危険性を少しでも減らすことができる病気の一つであることは間違いありません。

特に近視の強い方、家族に緑内障の人がいる方は要注意です。40 歳以上の方は年に一度は検診を受けましょう。

緑内障有病率



日本の全緑内障の６７．８％は開放隅角緑内障でありそのうちの９割以上は眼圧の正常な緑内障であることがわかり、緑内障治療とは正常眼圧緑内障をどうするかという問題であることが明らかとなりました。

網膜静脈閉塞症

網膜全体に分布する静脈の血管がつまり（閉塞）、出血や浮腫を起こします。

多くの場合、高血圧や動脈硬化などが原因で起こります。発症のピークは60～70歳代ですが、40～50歳代と比較的若い年代にも見られます。

網膜静脈閉塞症は、大きくふたつに分けられます。

ひとつは、静脈の枝分かれした部分がつまる「網膜静脈分枝閉塞症」。もうひとつは、静脈の本管がつまる「網膜中心静脈閉塞症」です。

網膜静脈分枝閉塞症

網膜中心静脈閉塞症

検査と診断：眼底検査で診断。蛍光眼底造影でさらに詳しく調べます。

治療方法：経過観察、薬物治療、注射、レーザー網膜光凝固術、硝子体手術があります。静脈閉塞症は、詰まる部位、出血の範囲・程度、経過など人によって千差万別です。

治療で大切なことは、静脈閉塞後できるだけ早く治療を開始すること。静脈閉塞は片眼に発症することが多く、両眼で見ていると気づかないこともあります。治療開始が遅れると視力が回復しにくく、合併症が起きやすくなります。

No, 42・43 合併号：平成24年（2012 年）1月～6月号

医療法人泰明会 谷藤眼科医院
〒020-0127　岩手県盛岡市前九年2丁目2-38
TEL：019(646)2227 FAX：019(645)3811